

1、災害対策について

本年、元旦から能登半島での震度7の地震に始まり、豊後水道や日向灘を震源地とする震度6弱の地震など、大変に大きな地震が日本列島を襲っています。

つい先日も台風10号が各地で猛威を振るっただけですが、豪雨などによる風水害、土砂災害など、北区でもいつ被害が出るかわからない状況です。

まず、被害に遭われた方々に、お悔やみとお見舞いを申し上げます。

最初に北区の災害対策について質問します。

【避難場所について】

まず、避難場所について質問します。

・避難所については避難所開設訓練などを順次自主防災組織で進めていただいています。避難場所に対しての、具体的な利用に対しての準備は北区全体としてどこまで進んでいるのでしょうか。

・地域によって、避難場所の環境は大きく違ってきます。公園ひとつとっても、防災設備の有無などに違いがあり、画一的なマニュアルでは対応できない状況です。避難した現場において、地域それぞれに合わせた訓練を経験しておくことが必要と考えま

すが、実際の現場ではどこまでできているのでしょうか。

・また、避難場所における設備の一覧などは区として作成をしているのでしょうか。

それぞれお答えください。

【避難所について】

次に、避難所について質問します。

・学校等に設置されている避難所は、状況によっては長期間避難する必要があります。避難すれば炊き出しなどができる設備は多ければ多いほど助かります。

それを実現するには、学校のみではキャパシティに限界があるため、近隣集合住宅や企業、施設などとの連携をする必要があると考えます。人的フォローはもちろんのこと、近隣のエリアのベンチをかまどベンチにしてもらうことや、マンホールがない、もしくは不足している学校では、学校外などでも対応できるような場所の設定や、それぞれの設置訓練も必要になります。

避難所単体だけではなく、避難所を地域としてフォローし、運営していけるように、自主防災組織だけに任せるのではなく、区が近隣施設などとの連携を進める後押しをしていく必要があると考えますが、区の見解はいかがでしょうか。

・また、昨今の水害は、想定以上の雨や河川の増水が課題になっています。避難所にある防災資機材倉庫や防災備蓄倉庫の多くは1階に設置されていると認識していますが、こここのところの豪雨で浸水するケースもあると聞いています。資機材や備蓄品が濡れてしまっは元も子もないですので、十分な対策が必要と考えます。現状問題のある避難所があるのかどうか、把握はされていますでしょうか。また把握されているようであれば対策を取っていただきたいと考えますが、状況を教えてください。

【台風や線状降水帯など、豪雨対策について】

次に、近年激しさを増している、台風や線状降水帯などの豪雨対策等について質問します。北区でも、台風や豪雨により、樹木が根本から倒れたり、駅前が冠水したり、

また、今まで水没していなかった場所や道路が短時間とはいえ冠水するような状況が続いております。先日も土砂災害警戒情報、レベル4が発令され、桐ヶ丘中学校に自主避難施設が開設されました。幸い被害は発生しなかったものの、北区においても豪雨対策は喫緊の課題であると考えます。

・今後、どれだけの被害をもたらすか予想がつかない中での豪雨対策において、大事な役割を果たしているのが、北区各所で進められている雨水流出抑制施設による対策です。浸水被害が多く発生していた赤羽台3丁目などは、高台にあたる学校や公園、体育館などに雨水流出抑制施設を複数設置した効果が発揮され、近年は浸水被害を抑えることに成功しており、地域でも大変に喜ばれています。

まず確認させていただきたいのは、今後の雨水流出抑制施設について、現状進めている計画はあるのでしょうか。また、今後新しく取り組むべきエリアはありますでしょうか。お答えください。

また、赤羽台けやき公園の地下から、東京都下水道局がシールド工法で進めている浸水対策工事も、地域の水害対策の重要な要ですが、こちらの進捗はどうなっているのか、お示してください。

・また、豪雨により家屋浸水や道路冠水が確認された場所の近辺は、決して排水機能がなかったわけではなく、側溝や雨水枡が機能していなかったことが原因の一つなのではないかと考えていますが、区の認識をお答えください。

また、被害が確認された箇所に関しては、今後、東京都と連携をして定期的な側溝や雨水枡の清掃をする、落ち葉を取り除くなどの対策が必要と考えます。北区としての水防計画としてはどのようなになっているのでしょうか。

【災害時の制度の推進・活用や、設備の増強について】

災害対策の最後に、災害時の制度の推進・活用や、設備の増強について質問します。

・避難所のキャパシティに限界がある今の状況では、在宅避難ができる体制も整えなければなりません。とりわけ北区は1000棟以上のマンションがあると言われており、在宅避難の要としてマンション防災対策は欠かせません。

北区でも本年3月に「北区マンション防災マニュアル」を作成配布していただいたことは、大きな前進だと思っております。まず、このマニュアルを今後、どう活用していくのか、また、北区としてマンション防災対策についてどう進めていくのか、計画を教えてください。

・東京都の制度に、防災対策の体制を整えているマンションに対して在宅避難促進のために、簡易トイレやエレベーターに設置する防災キャビネットなどの防災備蓄資機材の購入への補助金が出る、「東京とどまるマンション普及促進事業」がありますが、認証をうまく受けられていないという声をいただいています。

区としてこの制度の周知、さらには登録の支援などを進めていただきたいのですが、いかがでしょうか。

次に防災士の活用について質問します。我が会派では、たびたび防災士の活用を訴えて参りました。日本全国で2024年7月末の数字ですが、防災士は291,830名にのぼります。東京都でも23,980人の防災士が認証登録されています。それだけ防災意識の高い方が増えているはずですが、なかなか地域の現場で防災士の方の顔が見えていない現状があると考えます。地域の防災力を高めるためにも、防災士の活用と資格取得推進が重要です。そこで、質問します。

・北区では、区内在住の防災士をどこまで把握していますか。把握している人数と地域ごとでどのくらいの割合になっているか、お示してください。

・そして、防災士の活用を区としてどう考えていて、現状、どこまでできているのか、お示してください。

・防災士は共助の要になりますので、資格取得への勉強を通して、正しい知識を持った区民が増えることが重要と考えます。北区は防災士育成に力を入れるべきです。

目黒区、足立区、武蔵村山市のように、防災士取得費用の補助をできないでしょうか。

特に町会・自治会などに所属していて、それぞれの組織で活躍されている方に助成金

を使って取得をしていただいて、それぞれの組織の顔が見える方の中に必ず防災士が定期的について、定期的に誕生する、という環境をつくりだしていただきたいですが、いかがでしょうか。

・災害対策の最後の質問は、災害時、都市部で優先的に対応すべきことは何か、という問題です。私は、電力、トイレ設備、水の確保の3つを優先すべきと考えます。

まず電力については、蓄電池や太陽光発電について補助金が出るようになっていきます。防災観点から考えると、災害時に停電になった場合の命綱とも言えますので、さらに普及していくことが望ましいと考えます。そこでお伺いしますが、

・蓄電池や太陽光発電への補助の現状はどうなっているのでしょうか。

・また、今後、普及率向上のために補助率の向上なども検討していただきたいですが、区のお考えをお聞かせください。

・また、大規模単位の自治会、集合住宅、施設など、ある程度の備蓄が求められる場所だけでも「携帯用トイレの補助金制度」を創設できないでしょうか。

・そして、北区では災害用給水所が15ヶ所ありますが、こちらも点検時に利用訓練をするべきではないでしょうか。また、これから作られる新しい施設に、災害用協力井戸を積極的に導入してもらえるような制度を作ることはできないでしょうか。また、新設の区有施設にも導入を促進してください。区のお考えを伺います。

2、学校プール・区内プール施設の運営について

次に、学校プール、区内プール施設の運営について質問をします。

熱中症アラートや、暑さ指数（WBGT）の数値が高く、近年学校プールの運営が思ったようにできていない現状があります。

区内の小学校のある学年の例を挙げると、昨年は授業では半分の4回（8回中）、夏休みプール授業は5回中の1回（1週間5回中）、今年は授業では3回（8回中）、夏休みプール授業はやはり1回（1週間5回中）と、満足に水泳の授業を持たずにいる状況が続いています。

児童・生徒の安全を守るためですので、仕方のないことではありますが、

「水泳は生命にかかわる学習」であるため、あまりにプール授業が実施ができない状況に関しては、対策を立てるべきであると考えています。

・そこで質問ですが、学校プールの学期内授業での実施率と夏休みのプール授業の実施率と、中止になった原因はどんなものだったのでしょうか。

・現状、学校のプールには本年から開校した都の北学園をはじめとした数校に屋根がついていますが、現在の区立小中学校のプールは基本的に屋外で改築した学校も屋上にプールがあることが一般的で、屋根がない学校が多いのが現状です。

近年、プールサイドに日陰づくりができる開閉式のものも開発されていて、暑熱対策は物理的に可能になってきています。こういったものを区内小中学校のプールに導入を検討することを提案しますが、区の見解を求めます。

・学校外に目を向けると、区内には、屋根付きの区営プールは、元気ぶらざと十条台パノラマプールのみ、と絶対数が少ないのが現状です。今後、プール授業の外部委託なども検討していく必要が出てくる可能性もあるかと考えます。その時に、民間のプールを利用していくこと、もしくは区営プール施設を利用していくことも考えられます。その時のためにも、今後の対策としては、新しく建設される区営プールは屋根付き、または屋内を前提に設置していく必要があると考えますが、区の方針はいかがでしょうか。

・また、地域によっては、学校建築、または改築の後で高層住宅がプールそばに建設され、覗かれているのではとの学校側、児童・生徒側の懸念と、そのつもりがなくとも高層住宅の住民が気にして生活をするなどの懸念があります。

これを解消するためにも、例えば袋小学校のように可動式ブラインドを立てたりして対策をしているところもあります。今後そういった問題が発生した時の対策はどのように考えていらっしゃいますか、お答えください。

3、多文化共生社会構築について

次は、多文化共生社会構築について質問します。

現在、北区の外国人居住者は、北区の人口の8%にも及びます。近い将来、10人に1人は外国人、という時代が来る日も近いと考えます。

・そこでまずお聞きしたいのは、現在、区内で行われている外国人に対する対応には、主にどのようなものがあるのか、お答えください。

・地域の課題を伺っていると、どの地域に行っても、外国人の方とのコミュニケーション不足が挙げられます。なかなか、言語や文化の違いもあり、地域の日本人と外国人がうまくいっていない現状があるようです。

しかしながら、若い人材が多いことが区内在住外国人の特徴の一つだと思います。反対に、町会自治会は高齢化が進んでいるのが北区の現状です。彼ら外国人の力を地域に取り入れてもらえると大変に助けになると考えます。

例えば、桐ヶ丘地域で行われている外国人との共生の為の支援ボランティア TOMONI というグループがあります。LIFE スクール桐ヶ丘保育園をメイン会場に、社会福祉協議会、地域ボランティア、東洋大学学生ボランティア、日本語学校の先生、弁護士や行政書士の先生、そして地域に住んでいる日本語が堪能な外国人の方々にも参加してもらい、日本語の練習をしたり、行政からの手紙の読み方をレクチャーしたり、時には日本の文化を体験してもらったり、反対に現地の料理を振る舞ってもらったり、と、異文化交流が活発に行われています。

最近の会場では、ベンガル語の挨拶が飛び交ったりすることが日常になっています。積極的に地域貢献に取り組んでくれる保育園、丁寧に1人を大切に関わってくれるコミュニティソーシャルワーカー、献身的に関わってくれる地域やボランティアグループの方々が揃って、成り立っている取り組みです。

このようなコミュニティづくりを区としてもそれぞれの地域で推進していったらいかででしょうか。区のお考えをお聞かせください。

・また、地域の新しいコミュニティ創出には、桐ヶ丘の TOMONI の例を見れば明ら

かですが、区内の外部人材の発掘や、CSW、コミュニティソーシャルワーカーさんの充実は欠かせません。特に CSW に関しては、東十条・神谷、田端・中里、そして桐ヶ丘の 3 地域にしかない現状です。外国人対応も CSW の大事な役割の一つです。

今後の外国人居住者増加に対応できる、CSW の配置拡大をしていくことも急務ではないかと考えますが、これについての区のお考えをお聞かせください。

・また、現在、外国人対応に関しては総務課で担当していただいているかと思えます。多様化する外国人居住者対応、国際交流など、北区においても業務が増えているのではないかと推察しますが、現状はいかがでしょうか。

今後のことを考えると、総務課から独立した、多文化共生構築に特化した「多文化共生推進課」などの新組織も必要ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

・区民側の対応として、地域で主体的に動いていただけるリーダーづくりは欠かせません。静岡市の「多文化共生サポーター」制度など、外国人対応に積極的に取り組んでくれる区民の方の力を組織的に活用するための制度を区内で推進していくことも重要ではないでしょうか、区の見解を求めます。

4、赤羽西地域の諸課題について

最後に、赤羽西地域における諸課題について質問します。

【(仮称) 桐ヶ丘区民センターについて】

まず、令和 10 年に開設が期待されている (仮称) 桐ヶ丘区民センターについてです。地域振興室や授産場、図書館などの地域施設の集約がされる予定となっています。

・地域の方々の中には、いわゆる「庭いじり」を生きがいにしてきた方々がいらっしゃいます。地域にそういう場所を作って欲しいとの要望がありますが、桐ヶ丘はほぼ団地で構成されていますので、場所がありません。

そこで、(仮称)桐ヶ丘区民センターに、地域の区民が使える庭園、家庭菜園のような場所を作っていただくことはできないでしょうか。屋上でも、1階外でも、使えるスペースが取れるようであれば、ご検討いただきたいのですが、いかがでしょうか。

・また、(仮称)桐ヶ丘区民センター内の図書館では、2点取り入れて欲しい視点があります。

まずはスペースの使い方について、ソファやロングベンチなどを使って、ゆったりと読書できるスペースを作っていただきたいと思います。

また、新設の図書館には、人が集まる場所であっていただきたいと切に願います。温かみのあるデザインで落ち着いた場所にしていただきたいです。桐ヶ丘という土地柄ですから、例えば「桐」をモチーフに、図書館内外の素材に「桐」の木材を取り入れていただきたいと考えます。

以上2点について、区の見解を求めます。

【桐ヶ丘体育館改築について】

次に、改築が待たれる桐ヶ丘体育館についてです。

・まず、改築の場所についてですが、桐ヶ丘体育館を桐ヶ丘中学校向かいの広場を作ることはできないでしょうか。高台に作ることで災害時にも利用しやすくなりますし、中学校と連携した取り組みもできるようになります。避難所運営としても学校と連動できることは大きなメリットになると考えます。桐ヶ丘中学校は先日の台風10号の自主避難施設としても開設されましたが、2019年の台風19号の際、近隣低地部にお住まいの方々の避難所として要になる学校となったことでもわかる通り、重要な拠点となります。

・また、新設備として、屋内プールとジムと併設の浴場施設を求めます。

プールは先ほどの質問でも出させていただきましたが、地域に猛暑や冬にも入れるプ

ールが必要と考えます。子どもたち、また学校授業としての利用はもちろん、大人の健康増進、高齢者のリハビリ利用にも期待ができる施設となります。

お風呂については、地域の大事なコミュニティの場になります。過去、URはコミュニティを重要視したため、銭湯がある街、を前提に作ったと聞いています。地域の重要なコミュニティ施設になることは間違いありません。体育館ですので、スポーツジムと併設のスパのような形式で運営できないでしょうか。その際には外部委託で運営を任せることも検討頂きたいです。

団地はすべてお風呂が部屋についているので、地域に4つあった銭湯が撤退を余儀なくされた経験のある場所ですが、団地の高齢者にとっては、1人でお風呂に入るとは、不安が強い方も多く、知人と一緒に出かけられる浴場施設がバスに乗らずに行けることはメリットが非常に大きいです。

・また、スケートボードや3×3ができる場所が北区にはなかなかないのが現状ですが、一つは音の問題があります。これを解消するには高架下や屋内への建設が望ましいです。新体育館に導入することで、深夜利用にならず、外の設備で発生する音の問題がクリアできますので、ぜひ、検討頂きたいのですが、いかがでしょうか。

いずれにしても、世界に誇るNTCが近隣にある体育館として「スポーツのまちの象徴」としての新施設建設を求めます。プールにしても、浴場施設にしても、スケートボード施設などを体育館に備えることで、地域の方だけでなく、「人を呼べる体育館」にできると考えます。

・PFIも活用しながら、官民連携して、区民のみならず、他地域の方からも親しまれる体育館にしていだきたいと考えますが、その可能性と課題を教えてください。

【桐ヶ丘2丁目、赤羽台3、4丁目に商業施設が不足している問題】

・最後に、桐ヶ丘2丁目、赤羽台3、4丁目に商業施設が不足している問題について質問します。

このエリアは高低差のある地域なので、移動が大変なエリアです。商業施設が極端に少なく、特に生鮮食品を購入するのに苦勞が絶えない地域でもあります。移動販売も行っていただいています、充足しているとは言い難い状況です。

前回は質問させていただいた件ではありますが、現在の桐ヶ丘2丁目の緑道公園沿いの都営住宅跡地の利活用の際に、商業施設も検討事項に入れてもらえるようにさらに強く東京都に要望していただくことはできないでしょうか。

いずれにしてもこの地域に買い物のできる場所が極端に不足している現状がありますので、まちづくりの一環として、ご検討をいただきたいと要望させていただきます。

私からの質問は以上となります。ご清聴、大変にありがとうございました。